

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人頌栄会
施設名	認定こども園西鈴蘭台頌栄保育園
報告者（役職）	稲付 容子（園長）
住所・連絡先	神戸市北区南五葉2丁目3番11号
	☎ 078-592-4105
	E-mail west-glory@eos.ocn.ne.jp

### ○タイトル（保育計画）

もこもこトンネルで広がる世界

### ○主な助成備品

木製トンネル

## 1. 保育計画策定の目的

当園は神戸市からの民間移管を受け 2009 年に保育所として開園しました。築 50 年近い園舎ですので、少しずつ手入れをしながら子どもたちが長時間・長期間、安心して過ごすことのできる環境を整えてきました。しかし、園庭の環境はまだ不十分でした。特に運動発達を促す遊具が少なく、長時間・長期間を園で過ごす子どもにとって園庭でたっぷり「這う、くぐる、跳ぶ、登る、立つ、渡る」等の動きが必要であると考えました。また、「遊具を入れてほしい」という保護者の意見もあり、さらに遊具があれば遊びの展開に繋がるので切望する職員の声もありました。しかし、前述のように園舎の老朽化がさらに進んでいたため、修理、補修をする緊急度の高い箇所に資金を充てることが優先され、園庭の環境整備まで手が回っていないのが実情でした。

この助成金を頂くことができれば、医学博士前橋先生監修の遊具の一つである「もこもこトンネル」を購入し、園庭環境の整備のスタートとし、また子どもたちの運動発達の保障ができると思い、計画策定をして応募させて頂きました。

## 2. 具体的な実施内容

設置に当たり、職員で園庭のどの場所に置くと子どもの遊びの動線がよいか、保育者も安全に見守ることができるかを検討しました。その結果十分に身体を動かして遊ぶことのできるスペース且つできるだけ安全面も確保できる場所に決めました。

業者が設置する様子を子どもたちが見ており、「早く登りたい」「早く入りたい」という声が聞かれました。設置後、まず 5 歳児の子どもたちに「もこもこトンネル」という名前

であることを伝え、遊び方の確認をしました。子どもたちからは、その名前と仕様から「入れるよ」「上にも登れるよ」「でもおもちゃは持って登らない方がいい」「上から飛んたら危ない」等の声が聞かれました。その後5歳児が「オープンセレモニー」をして、一番に遊びました。中に入り穴から外を覗く子ども、出たり入ったりする子ども、上に登ったり、登るのが難しい子どもは友だちに手伝ってもらって登り、ちょっと高い世界を楽しんでいました。5歳児が決めた使い方や約束はその他のクラスの子どもや職員とも共有し、晴れて園の遊具となりました。

### 3. その成果と評価



小さい子どもたちは中に入ったり、隠れることで「狭い空間」に安心しています。また、近年大切な動きと言われつつ減ってきている「ハイハイ」の動きもできます。また、穴から覗いてみたり、大人と「いないいないばあ」も楽しんでいます。大きい子どもたちは腕と足の力を使って登ったり、友だちとかくれんぼや基地ごっこも楽しむことができ、園庭での遊びが豊かになりました。大きい子どもが上に登っているのを憧れの眼差しで見ている2,3歳児クラスの子どもたちは、自分で考えタイヤやベンチを持ってきて登ったり、大きい子どもが登る姿をじっとみて何度も真似してみたりしながら、やっと登ることができた時は大満足の表情でした。さらにコロナ禍で体力が落ちた子どもたちに運動発達を促すこともできました。

何より自然木であることから園庭に馴染み、子どもたちの身体や目に優しく、園庭のシンボルの一つになりました。このもこもこトンネルは昭和の時代に子どもたちが遊んでいた空き地のドラム缶のような役割を担ってくれ、当初期待していた大人の想像以上の遊びを子どもたちが作り上げています。



#### 4. 今後の課題と展望

この遊具で子どもたちの身体を作る一旦を担うことができ、「もこもこトンネル」いう名前と共にここで遊んだ記憶が子どもの中に残れば嬉しいです。

ただ、126定員の自園では、安全面も考慮して、幼児クラスと乳児クラスが一度に園庭で遊ぶことはせず、時間差の工夫をして使用しています。遊びの分散という意味では、この遊具だけでは足りないと感じます。予算の限りもありますが、できるだけ子どもたちの遊びの充足ができるよう、遊びを工夫したり、遊具を足したりしながらさらに運動発達を促す保育を進めていきたいと思えます。



以上